

「ニュース  
タリーだけ  
著を飽きさ  
を工夫しな  
い」と話し

## 滅災へ」

型」。TB  
道局長は、  
害報道のあ  
こめてそう  
5年の阪神  
在京局は大

世市川中  
元代)の両  
じほった。

平、歌舞伎  
市一次東宝  
ならずで解  
東宝歌舞伎  
るなど、自  
持ちたいと  
こていた。  
迎えるに当  
塚を舞台と  
架大衆時代  
の確立、古  
舞伎劇の上  
垣目のビジ

さな決断を  
私の大学  
し修善寺の  
四親、私、  
はピンポン  
し楽しく過  
生まれて初  
しかし温  
と時であっ  
舞伎俳優)

## 抄遊

私に肩書き  
る。戦争の語られ方を語  
が一つつくと  
るといふ視点が今でも新  
き、「小説家」  
し、描写は風景や匂い  
であることが  
までもが運ばれてくる。  
多い。けれど、  
知り合った当時、先生

物語に関して、私がいち  
ばん大きな影響をつけた  
のは、ある種の研究者だ  
の、ある種の「と  
と思う。「ある種の」と  
た一人だと思う。編集者

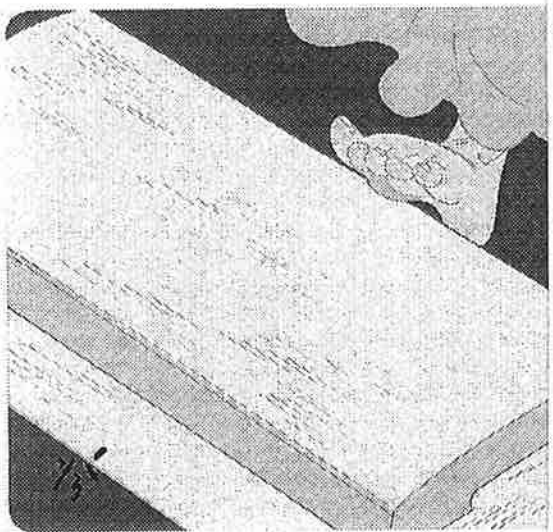
いうのは、ジャン  
ルに収まらず越境  
していくこと、い  
や、越境してやま  
ないものにこそ、  
私には惹かれてしま  
うから。

## 師の幅広い心

理 真 坂 赤

かで借りていた事  
務所に、遊びに行  
っていたことを思  
い出す。私は大学  
の終わりだったか  
出たてだったか。  
無益ぶりに、しま  
いには見限られて  
いた。それでも、  
それは私の中の決  
定的なシーンの一  
つだ。

生井先生は、私が大学  
生だった1980年代末  
で、卒論を書くのに紹介  
された本の著者だった。  
『ジャンゲル・クルーズに  
うってつけの日』は、ヴェ  
トナム戦争の表現のされ  
方について書いた本であ  
さか・まり川作家)



を見抜かれたのでしょうか。だから厳しく戒められ  
たのです」

この絵は自分が預かり、改めて総帥に見てもら  
う。そう言ってそそくさと引き下がった。

表門を出ると、等伯は曇天をとおいだ。名声を  
ほしいままにしてきた狩野家に、こんな内幕があ  
るうとは想像さえしていなかった。

「父上、申し訳ありません」

久蔵が涙を浮かべて永徳の非をわびた。

「なぜ謝る。辛いのはお前だろう」

「私は弟子でしたから。あれは総帥の病です。い  
つもはこんなことはありません」

「分っている。私も少し言い過ぎたようだ」

「以前はあんなことはなかったぞです。しかし  
関白殿下に命じられて信長公のご尊像を描き直さ  
れたために、各方面から無言の非難にさらされ、  
心の病をわずらわれたのです。きつと狩野派を支  
えていく重庄は、我々が想像するよりはるかに大  
きいのでしょ」

「分っているって。そんなに方々に気をつかうな」  
お前はとうとうそんなに出来がいいのだと、等  
伯は久蔵の肩を抱きしめてやりたくなった。